

学校法人武蔵野学院  
武蔵野短期大学  
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日  
財団法人短期大学基準協会

## 武蔵野短期大学の概要

設置者	学校法人 武蔵野学院
理事長名	高橋 暢雄
学長名	高橋 暢雄
A L O	伴 好彦
開設年月日	昭和56年4月1日
所在地	埼玉県狭山市上広瀬860番地

## 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育学科		100
	合計	100

## 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

武蔵野短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 19 年 7 月 18 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、教育理念を「自覚ある女性」の育成と定めている。幼児教育学科のみの短期大学であり、幼児教育者・保育者としての専門的な知識と能力を養うように教育している。

全学協力の下で、幼稚園教諭と保育士の二つの資格が取得できるように、教育課程が編成されており、音楽、図画工作、体育という基礎技能の修得を重視している。

教員数は短期大学設置基準を満たしており、各教員は授業や研究、学生指導、その他の業務に対して非常に積極的に取り組んでいる。

単位認定にあたっては出席を重んじながら基準に従って認定し、クラス担任の教員をはじめとし、教科担当教員や事務局職員などによる学生指導によって、学生の修学を支援している。学生による授業評価が学期ごとに行われ、その結果を次の授業に役立つように活用している。また、資格を生かした専門就職の割合は高い。

学生へのガイダンスやオリエンテーション、進路支援などは、組織的かつ綿密に行われ、特にクラス担任制を設けてホームルームを行っていることは学生支援体制として成果をあげている。

個人研究費（旅費を含む）が支給され、専任教員ごとに研究室も与えられており、研究日も確保され、研究条件は整備されている。

地域に開かれた短期大学として、地元ケーブルテレビ局と連携して制作した番組が放送されているほか、狭山市から企画・運営を委託された「子育て支援学科」の事業や、公開講座なども積極的に展開するなど、短期大学や教員、学生が一丸となって社会的活動に取り組んでいる。

理事会、評議員会は適切に開催され、理事会の意思決定が速やかに行われており、常任監事を含む監事の監査機能も十分に発揮されている。

学長は教育活動全般に関与し、教授会をはじめ、科会及び各種委員会の開催運営について副学長及び学科長と連携を密にし、リーダーシップを発揮している。

財務については、支出超過ではあるが学校法人全体として余裕資金を相応に持ち合わせ

ており、財務方針である「無借金経営」に徹している。

今回の第三者評価をきっかけにして、組織的な短期大学の改革・改善に取り組もうという意欲が強く感じられた。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域V 学生支援

- クラス担任が学生生活支援を行っており、特に1年次には毎週1コマのホームルームの時間を設け、学生との接点を確保している。

#### 評価領域VI 研究

- 教員の研究活動のテーマをウェブサイトで公開していることは、情報公開の点からも好ましい。

#### 評価領域VII 社会的活動

- 狭山ケーブルテレビと連携して、教職員や学生が取材したものに専門家が手を加えた番組を制作し、それらが年間を通して毎日放送（毎週木曜日更新）されている。

#### 評価領域VIII 管理運営

- チャレンジシート制度を実施しており、専任の教職員は、それぞれの業務における目標、抱負及び提案などを提出した後、上司との面接を行っている。この制度は、能力開発及び人事配置や業務の見直しなどに効果を発揮している。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教養科目のうち履修者のいない科目がかなりあるので、改善を図ることが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金は十分あるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が望まれる。

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は、教育理念を「自覚ある女性」の育成と定めている。また、幼児教育学科のみの単科の短期大学で、幼児教育者・保育者として専門的な知識と能力を養うように教育している。

具体的には4項目の教育方針を掲げて、これを学生募集の段階から、日常の学習に至るまで、随所で目に触れるように示している。

教職員は教育方針に沿って自己の行動を点検し、次年度の行動計画を「チャレンジシート」にまとめているので、共通理解を持ちやすい。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

幼児教育学科のみの短期大学として、全学協力の下で、幼稚園教諭と保育士の二つの資格が取得できるように、教育課程が編成されている。特に保育者として音楽、図画工作、体育という基礎技能の修得を重視している。

学生のニーズにこたえるように多くの教養科目が用意されているが、履修学生のいない科目があるので、その理由を分析し、改善する必要がある。

シラバスが整備されつつあるが、各科目の到達目標を更に具体的にすることが望ましい。ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動については、更に組織的に展開することが望まれる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数は短期大学設置基準を満たしており、各教員は授業や研究、学生指導、その他の業務に対して、非常に積極的に取り組んでいる。専任教員の構成ではベテラン教員が多いので、今後は中堅層の充実を図ることが望まれる。

学内の教育環境の整備が進められ、附属幼稚園は広々とした施設であるので、学生の実習の場としては便利である。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

幼稚園教諭及び保育士養成という立場から、単位認定にあたっては出席を重んじながら、基準に従って認定している。学生による授業評価は学期ごとに行われ、その結果を次の授業に役立つように活用している。資格を生かした専門就職の割合は高く、就職部、実習部が卒業生の就職先での評価について情報収集を行っているが、「前向き」、「素直」、「よい教育を受けている」と評価が高い。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

短期大学案内にはどのような教育が行われ、どんなキャンパスライフになるか分かりやすく示してある。学生募集要項では、そのためにどのような学生を求めているかを述べた上で、アドミッション・オフィス（AO）入試、推薦入試、一般入試がそれぞれどのような特色がある試験であるかを説明している。

学生へのガイダンスやオリエンテーション、進路支援などは、組織的かつ綿密に行われ、ホームルームでのクラス担任の指導・助言をはじめとし、教科担当教員や事務局職員など全学をあげて学生の修学を支援している。

### 評価領域Ⅵ 研究

あらかじめ提出した研究計画に基づいて、個人研究費（旅費を含む）が支給され、専任教員には研究室も与えられており、研究日も確保され、研究条件は整備されている。「チャレンジシート」による自己点検・評価の体制も整備されている。しかし、隔年に『武蔵野短期大学研究紀要』への投稿が義務付けられているにもかかわらず、研究成果が十分ではない教員が散見されるので、短期大学全体として研究活性化へ一層の努力が望まれる。

### 評価領域Ⅶ 社会的活動

地域に開かれた短期大学として、地元ケーブルテレビ局と連携して制作した番組が放送されているほか、狭山市から企画・運営を委託された「子育て支援学科」の事業や、公開講座なども積極的に展開しているなど、短期大学や教員、学生が一丸となって社会的活動に取り組んでいる。また、国際交流について、「アジア地域幼児教育実習」を通して学生の国際理解を深める活動は評価できるが、もう一工夫あるとより実績が上がるであろうこと

から、併設四年制大学との連携によって、なお一層の国際交流の活性化が期待される。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は併設四年制大学及び短期大学の学長を兼務しており、教学及び経営の意思決定はもとより短期大学運営の最高責任者としてのリーダーシップも発揮している。理事会、評議員会は適切に開催され理事会の意思決定が速やかに行われており、常任監事を含む監事の監査機能も十分に発揮されている。

学長は教育活動全般に関与し、教授会をはじめ、科会、各種委員会の開催運営について副学長及び学科長と連携を密にし、リーダーシップを発揮している。

事務組織は、併設四年制大学及び短期大学の共通部門と、短期大学のみを主対象とする実習部及び短大就職部から成り立っており、兼任職員が多い中、各部局間の連携・協力による円滑な業務運営が行われている。

なお、法人本部（東京都北区）と短期大学（埼玉県狭山市）が離れているため、意思疎通に心がけることが望まれる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

予算の策定、決定、執行などは円滑に行われており、計算書類は適正に作成されている。また、財務情報の公開は事務所内に書類を備えているほか、学園のウェブサイトにおいて広範囲にわたる詳細な情報を提供するなど、財務運営は適切に行われている。

過去3ヶ年の収支計算書では、短期大学部門、学校法人全体ともに支出超過の状況が続いているが、学校法人全体として余裕資金を相応に持ち合わせ、財務方針である「無借金経営」に徹している。財務管理の強化については、理事長をはじめ全役員が強く認識しており、消費収支面の改善の努力を重ねている。

校地・校舎など併設の四年制大学と共有する部分もあるが、短期大学としての施設設備は充足し整備されている。

安全・安心に向けての対策として、諸規程の整備、防災・防犯対策及び避難訓練の実施など、積極的に取り組んでいる。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

「チャレンジシート」による教職員の自己点検・評価が毎年度末に徹底して行われている。

学園全体としての改革・改善活動については、平成16年の四年制大学開設、平成19年の大学院開設があったため、組織的な短期大学の改革・改善活動がこの間少し低調であった。しかし、現在は短期大学、併設四年制大学、大学院が一体となって、改革・改善に取り組んでいる。今回の第三者評価をきっかけにして、更に改革・改善に取り組もうという意欲が強く感じられた。